

総合大雄会病院 形成外科 Daiyukai Plastic and Reconstructive Surgery ママと赤ちゃんの健康のお話

第4回

赤ちゃんの
健やかな成長へ

あたまの形 外来

赤ちゃんのあたまの形外来について

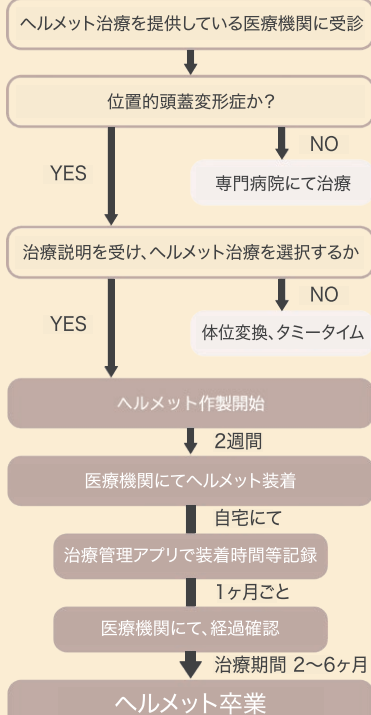
赤ちゃんの頭の歪みの原因は、「病的要因」と「外力による変形」に大別されます。病的要因は「頭蓋骨縫合早期癒合症」と言い、赤ちゃんの0.04～0.1%に起こります。治療には専門の医療機関での手術が必要です。外力による変形は、「位置的頭蓋変形症」と呼ばれ、頭の歪みの大部分を占めます。原因のほとんどは頭をいつも同じ方向に向けて寝ることで、接地面の成長が抑えられ斜頭や短頭といった変形が起きます。脳の発達に影響はないと言われていますが、見た目への影響や、噛み合わせが悪い、眼鏡やマスクがかけにくい等の問題が発生する可能性があります。

治療には理学療法とヘルメット治療の2つがあります。理学療法には、頭の向きを変える体位変換と、保護者の方の監督下でうつ伏せの時間を設けるタミータイムがあります。理学療法で改善が難しい場合はヘルメット治療を行います。3Dカメラで計測した頭の形のデータを元に、オーダーメイドで設計したヘルメットを使用します。ヘルメットを装着することで、頭の平らな部分に空間をつくり成長を促進させ、逆に尖った部分の成長を一時的に抑えます。開始時期は赤ちゃんの首が座る生後4～8ヶ月ごろで、ヘルメットの装着期間は2～6ヶ月が標準的です。治療の開始後はおおむね月に1回の頻度で治療経過を確認します。

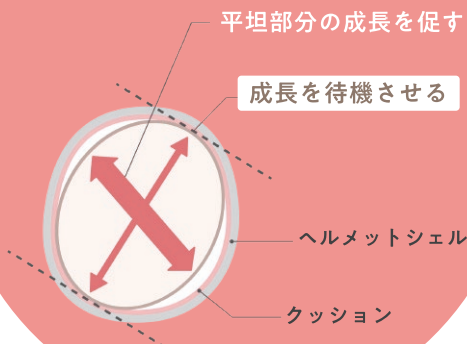
赤ちゃんの頭の形が気になるときは、「あたまの形外来」を行っている医療機関にご相談ください。



ヘルメット治療の流れ



ヘルメット治療の原理



あたまの形外来について
▼詳しくはこちら▼



監修



形成外科診療部長

いとう ゆうすけ
伊藤 悠介 医師

〈主な資格〉

日本形成外科学会認定形成外科専門医



資料提供:株式会社Berry

